平成 30 年

7 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

平成３０年７月の普及活動状況ダイジェスト版

新たなブランドづくり

革新支援センター■ベトナム国ゲアン省農政職員　農業技術研修の開催

７月18～26日、ベトナム国ゲアン省の農政職員13名が「岐阜県とベトナム国ゲアン省人民委員会との友好協力に関する覚書（H27.11 締結）」による農業技術研修のため来岐した。

今回の研修は、「安全・安心な農産物の栽培技術」をテーマとして農業経営課が中心となりカリキュラムを作成し、期間中はファシリテーターとして同行した。

研修は、ＧＡＰやぎふクリーン農業の取組み、病害虫発生予察の仕組み、農産物の残留農薬チェックの概要、および今後の農業を担う後継者育成の取組みなどを紹介するとともに、ＩＰＭ（総合的病害虫・雑草管理）技術の実習、安全・安心な農産物栽培に取組むえだまめなどの産地を視察するなど、多岐にわたる内容とした。産地視察では、担当の農業普及課が工夫をこらし、選果システムの視察、茶の飲み比べ、農機の紹介などを取り入れ対応した。

今回の研修で、ゲアン省職員は、岐阜県の安全・安心な農業への取組みに理解を深めるとともに、関係者との交流が図られた。

【農大での意見交換】

【岐阜市のえだまめ選果場】

【揖斐川町の茶】

揖斐農林■茶　紅茶加工講習会を開催

二番茶の摘採・加工の最盛期の６月 29 日、紅茶生産者の増加と紅茶加工技術の向上を目的に、管内の茶生産者を招集して、池田町茶業振興センターで加工講習会を開催した。同センターを管理する「サポートいび」の職員と県農業技術センター研究員の協力で実演を行いながら、手順や条件、加工のポイント等を説明した。前日に摘採し、萎凋させた茶葉を用いて、葉の細胞を砕いて酸化発酵をうながす揉捻、篩分け、発酵、乾燥の工程を参加した３名の生産者も一緒に作業してもらい、作業の合間には、他産地の紅茶等の試飲も行った。

【加工講習会の様子】

農業普及課では、特色ある茶の生産振興のため、今後もこのような研修会を開催する予定である。

中濃農林■加工用さつまいも　ベトナムの視察団がほ場視察

７月24日、今年度から普及課題として取り組んでいる美濃市の加工用さつまいも品種選定実証ほに、ベトナム国ゲアン省の農業視察団13名が訪れた。

農業普及課が、さつまいも栽培方法や試験内容について、担当農家から、導入した機械装備の説明を行った。

ゲアン省関係者からは、栽培方法や、今後の技術連携などについて活発に質問があった。今回の交流が、技術習得の一助になることを期待している。

【ベトナムからの視察団】

売れるブランドづくり

岐阜農林■えだまめ　県ＧＡＰ確認制度団体申請実施

７月５日、ＪＡぎふえだまめ部会は、県ＧＡＰ確認制度の団体申請を行った。農業普及課では、ＪＡぎふ事務局と連携し、えだまめ部会員の自己点検・内部点検、並びに内部点検結果に基づく改善指導を行ってきた。今回、目標としてきた７月申請の準備ができた13戸が申請を行い、今後農場審査等が行われる予定である。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携し、県ＧＡＰ確認制度の円滑な推進を図るとともに、県ＧＡＰ実践希望者の育成に向けて指導を行っていく予定である。

【改善指導の様子】

西濃農林■なし　新技術及び産地視察研修を実施～第３回「梨塾」～

７月 11 日、大垣市ナシ生産連絡協議会の主催による第３回「梨塾」が開催され、塾生６名と大垣市、ＪＡにしみの担当者、県職員らが参加して三重県農業研究所及び伊賀市白鳳梨生産組合への視察研修を実施した。

農業研究所では、大垣市でも導入されている根圏制御栽培法（こんけんせいぎょさいばいほう）について、収穫量などの生産実績の他、栽培管理上の留意点について詳しい説明を受けた。伊賀市の梨園では、1.1ha を栽培している若手農業者から、経営内容及び数人の若手農業者が育ち、拡大傾向にある産地の振興方針を聞き、活発な意見交換を行った。

【若手生産者から説明を聞く塾生】

農業普及課は、視察の組み立てと連絡調整等の他、視察行程の道中で栽培技術に関する研修、クイズ形式での梨に関する情報提供、ＳＷＯＴ分析（強み弱み分析）とマンダラアート手法を用いた産地の分析・診断を行い、梨産地の維持と後継者育成を支援した。

郡上農林■岐阜県ＧＡＰ確認審査　(株)奥美濃プロデュースの農場審査

(株)奥美濃プロデュースは、夏秋トマト、ミニトマト、スイートコーンを主に栽培しており、ＧＡＰの実践により経営力向上に取組んでいる。農業普及課では、５月から岐阜県ＧＡＰ確認制度の農場管理基準に適合するよう指導を進めてきた。

７月19日には(株)奥美濃プロデュースの農場において、岐阜県ＧＡＰ指導員の資格を持つ普及指導員２名が農場審査を行い農場長他、法人関係者から農場管理の現状を聴取すると共に現地や関係書類を確認した。

今回の農場審査ののち、県確認委員会において確認されれば、郡上管内では、初の岐阜県ＧＡＰ確認生産者となる。

【農場審査の様子】

農業普及課では、今後も岐阜県ＧＡＰ確認制度に適合する生産者が増えるように、管内生産者や生産組合の支援を行っていく。

東濃農林■アスパラガス　高温対策技術確立に向けた実証を開始

今年度、農業普及課ではアスパラガスの高温対策技術を確立するため、遮光資材を使った実証ほを設置している。

実証ほでは、梅雨明け直後からハウス内に測定機器を設置して温度と湿度を記録するともに、定期的に若茎の発生状況を調査し、収集したデータに基づき遮光対策の効果を検証する。

7月中旬以降、日平均気温が30℃を超える日が続く中、管内のアスパラガス生産者のほ場では、若茎に高温やかん水不足による生育障害が発生しており、高温対策技術の確立は産地化に向けた重要な課題となっている。

【遮光資材を設置したほ場】

農業普及課では、アスパラガスの産地化に向け、安定した収量、品質を確保できる栽培技術の確立と普及に取り組んでいく。

恵那農林■水稲　「食味分析鑑定コンクール in 飛騨」に向けた良食味栽培研修会を開催

【モデルほの現地視察風景】

管内の生産者、ＪＡひがしみの、中津川市、恵那市、県が一体となり、一昨年から活動を開始した「東美濃産コシヒカリ」極良食味米産地確立プロジェクトでは、今年 11 月に、高山市で米・食味分析鑑定コンクールが開催されることを踏まえて、その入賞を目指すため、7 月 11 日に良食味栽培研修会を開催した。

研修会では中山間農業研究所長より、恵那のコシヒカリの現状の評価とコンクールで入賞するために必要な栽培方法や産地としての取り組み等について説明があった。また、プロジェクトで設けているコンクール向けのモデルほ場を現地視察し、生育状況を確認した。研修会には担い手農家、プロジェクト関係者41名が参加し、食味向上の栽培技術や食味向上に向けた産地としての取り組みについて活発な意見交換がなされた。

農業普及課では、この研修会を契機としてプロジェクトメンバーと連携し、「東美濃産コシヒカリ」の良食味化を推進していく予定である。

飛騨農林■すずしろグループ　大根栽培研修会

【大根栽培研修会の様子】

７月 12 日、ＪＡひだ森茂支店において、すずしろグループ大根栽培研修会が開催された。上記グループが生産する「奥飛騨山之村寒干し大根」は、昨年度、地理的表示（ＧＩ）保護制度や飛騨市推奨特産品に登録された。その加工に用いる大根の播種を８月に控え、土作りや病害虫防除等について研修を行うとともに、昨年度の栽培について振り返り、意見交換を行った。生産者間で意見を交わすことで、より品質の高い大根の生産にむけての士気が高まった。

農業普及課では、今後も栽培技術の向上や地域振興のために、支援を行っていく。

住みよい農村づくり

可茂農林■農産物全般　７月上旬の豪雨への対応

７月豪雨では、可茂地域でも５日～８日にかけて大雨となり、農業普及課では、９日朝より被害状況の把握・支援を行った。

管内では、津保川沿いの水田等の冠水や山間部でのほ場の崩落や冠水などが確認され、事後対策などを関係機関らと検討した。

大きな被害があった他地域に比べて被害は軽微傾向であったものの、今後の栽培管理などを引き続き支援していく。

下呂農林■エゴマ　７月豪雨からの復旧を支援

【川が溢れエゴマほ場が冠水、鳥獣防止柵も被害】

西日本を中心に甚大な災害となった７月豪雨は、下呂市でも家屋や施設だけでなく、農作物にも様々な被害をもたらした。

普及を進めているエゴマ（あぶらえ）のほ場も冠水や土砂流入など大きな被害を受け、加えてその後の高温により一部が生育不良となり、追肥や潅水による回復を指導している。

エゴマ以外にも、用水路が土砂で埋まり潅水できない水稲や天候の急変による野菜の生育不良など、豪雨に起因した障害も発生しており、農業普及課では農産物の栽培面での復旧支援を進めている。